

『農業に特化』した生産者にお得な情報をお届けします!!

第三号

No.3

2016年
4月発行



昭和肥料ニュース

平成27年の気象と生育を振り返る！今年も儲かる米作りに挑戦しましょう！

昨年は、全国的に降雨量が多く、日照も多かった7月までは良好に見えましたが、8月に入り、盆明け以降からの気温は低めに推移し、日照不足が進んだ年でした。

3月・4月

気象のアップダウンは10℃以下で大きく地温は上がりません。この時期の土壌状態での酸素供給や団粒構造が悪ければ、収穫後に施用した堆肥の分解速度は悪く、還元状態での硫化水素、活着の遅れに影響があります。



10aあたり水稲で年間に必要とする腐植吸収量は60kg前後です。腐植量を増やすことが絶対条件です！

腐植+鉄・ケイ酸・マンガン・苦土の起爆剤は重要です

5月～7月

田植え後の気象は順調に推移しましたが、7月中旬からの日照時間(全国平均161%以上)は幼穂形成期中の細胞のデンプンが詰まらない稲穂は窒素過多が多発しています...



ケイ酸・マンガン・苦土・後半のカルシウムを考えれば、昨年の気象を踏まえ、確実に良質な土壌改良材を選ぶべきです。

8月・9月

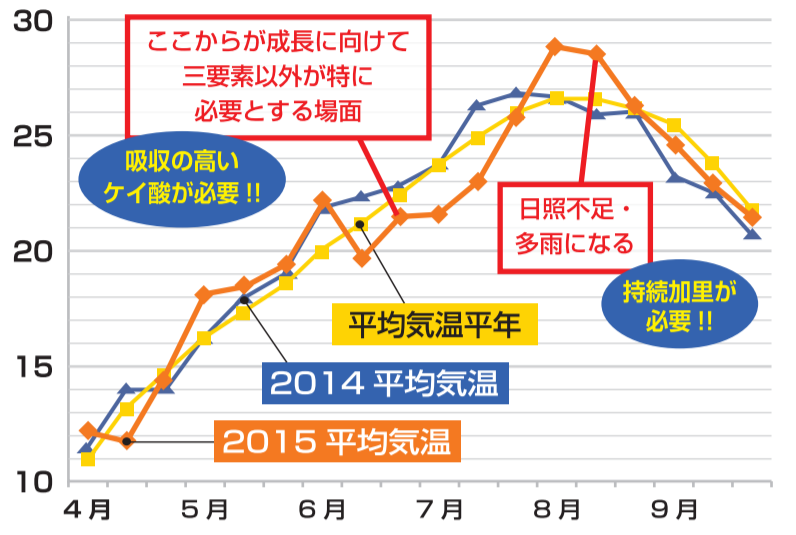
8月は平均気温(平年全国比1.4℃)、日照時間(全国平均149%)共に上回りましたが、中旬以降は共に平均を下回り、9月に入ってもこの傾向は続き、登熟に大きな影響を及ぼしました。また、収穫時期まで雨も多く、刈取り作業も遅れました。



適期収穫の判断を間違えると、品質低下に結びつきます。

資料1 月間平均気温 10日毎 (気象庁ホームページより)

ここ数年の気温の傾向は変わりません



7月からの気温上昇
8月後半からの日照不足・長雨
堆肥化問題

山積みな問題

解決策

信頼できる販売店・メーカーとの関係が必要

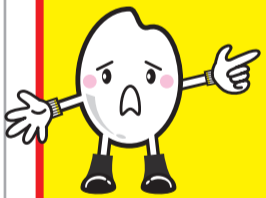
鉄・マンガン・苦土・加里・
高吸収ケイ酸を施用

あるべき姿

腐植物質の分解速度 **地力** 酸素供給・排水対策・
土壌の団粒構造

結果

昨年は全国平均収量521kg/10a 当たり...
希望は600kgは欲しいところ



北海道・東北が全粳数・登熟良好でやや良、関東以西では日照不足・登熟不良によりやや平年を下回る東高西低型。また、登熟期の日照不足の影響により登熟歩合や1.9mm以上の割合が低下し、くず米が多くなったようです。

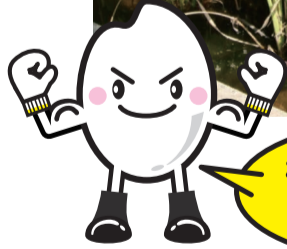
～生産者のコメント～

昨年は籾殻が発育する幼穂形成期から出穂期にかけて気温が低く経過しました。しかし、玄米が発育する出穂期以降は天候が一転し、高温・多日照であったため、籾殻が小さいのに米粒が大きくなる状態が進み、殻が開いた籾が増加し、カスミカメムシ類がデンプンを吸いやすい環境となってしまいました。したがって、肥料店やメーカーから土づくりや気象を予測した指導をもらい、結果OKでした。

昭和肥料お勧め商品



根をしっかりと長く太く、強く育てます。
茎のしなりや太さの違いも一目瞭然!!



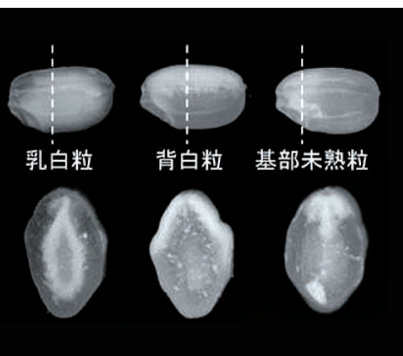
根も茎も強さは
チャンピオン級!!



米・食味分析鑑定コンクールで、
入賞を果たした経歴をもつ
お米農家推奨土壌改良材

土壌に必要な腐植も
たっぷり含んでいます!

不完全米の発生要因について



水稲の早期、普通期栽培では、米が白くなる不完全米(背白米・乳白米・心白米)の発生がみられます。そこで、これらの不完全米の発生と気象要因等との関係について紹介します。

- 背白米の発生には登熟前の高温が影響し、乳白米・心白米の発生には台風や日照不足が影響します。(背白米は出穂後20日間の平均気温27℃以上で発生し、28℃以上で多く発生します。)
- 乳白米・心白米の発生も台風による倒伏や日照不足が影響します。

これらの不完全米が発生しないように、水稲栽培は早植えしないことが大切です。

◀写真 高温で発生しやすい白未熟粒(乳白粒・背白粒・基部未熟粒)の外観(上)と横断面(下)

室井工場長
より一言!!



昭和肥料ニュースも今回で第3号を発刊する事ができました。お陰様で年々評価も高まり、使用される生産者も増えていきます。弊社の製品が日々の栽培管理の一助となれば幸いです。